

令和6年度 石油コンビナート等防災体制検討会（第3回）
（石油コンビナートにおける事故に関する検討）
【議事要旨】

- 1 日時
令和6年6月28日（金）13：00～14：10
- 2 会議方式
対面及びWEB方式
- 3 出席者
別紙（出席者名簿）参照
- 4 配布資料
資料1 石油コンビナート等防災体制検討会（石油コンビナートにおける事故に関する検討）報告書（案）
資料2 石油コンビナートにおける事故分析を踏まえた事故防止の手引き（案）（別冊1）
資料3 自衛防災組織等の防災活動の手引き（案）（別冊2）
資料4 自衛防災組織等の防災要員のための標準的なテキスト（案）（別冊3）
- 5 内容
 - (1) 議事
 - ア 石油コンビナート等防災体制検討会（石油コンビナートにおける事故に関する検討）報告書（案）について
【資料1】に基づき事務局から説明
 - イ 石油コンビナートにおける事故分析を踏まえた事故防止の手引き（案）について
【資料2】に基づき事務局から説明
 - ウ 自衛防災組織等の防災活動の手引きの改訂（案）及び自衛防災組織等の防災要員のための標準的な教育テキストの改訂（案）について
【資料3】及び【資料4】に基づき事務局から説明
 - (2) 主な意見及び質疑（座長：㊞ 委員：㊟ 事務局：㊠）
 - ア 石油コンビナート等防災体制検討会（石油コンビナートにおける事故に関する検討）報告書（案）について
 - ㊟：【資料1】第2章5についてグラフ（図2.5.4）やグラフ（図2.5.6）から読み取れることとしては、「経験年数が20年以上の割合が増加傾向にある」や「年齢41～50歳の件数が増加している」ということよりも「近年は〇〇年代が多い」ということだと思うので、書きぶりを変えた方が良いのではないかと。
 - ㊠：事務局にて委員と相談の上、表現を修正する。
 - ㊟：【資料1】第5章1（1）の「腐食疲労劣化」という用語について、分類上「腐食疲労等劣化」ではないかと。

⑧：記載誤りなので、「腐食疲労等劣化」に改める。

イ 石油コンビナートにおける事故分析を踏まえた事故防止の手引き（案）について

⑥：【資料2】第2章2.1.3「高温表面熱」の記載について、ガスの状態のものが高温体と接触した際の話だが、通常、発火点を測るときは、500ccの密閉された状態で温度を上げていき、可燃性蒸気が逃げないような形にして、最小着火温度を測るという方法だと思うので、この方法だと火はつくけれども、実際の現場で可燃性ガスが流れていくような状態の時では、溜まりがないため、発火点程度の温度ではつかずに、かなり高い温度でないと火はつかないと、過去、当市で行っている委員会、学識経験者の方から指摘を受けたことがある。その場合は、瞬間着火温度という1秒触れただけでつくような相当高い温度でないと、気体の場合はつかないということであり、高温体のガスの接触で発火という表現が、何か文献や消防本部からの報告で事案があればいいのだが、そうでなければ、ガスではなくミスト状のものであったり、液体であれば付着したところが高温で気化されて着火するという事例があるので、そちらに修正した方が無難だと考える。

⑧：内容を確認し、専門家の意見も踏まえた上で、記載内容を検討する。

⑥：【資料2】第3章3.2「施工面事例No.3」について、3.対策事例の電気設備の順番が混在しているので整理して記載してはどうか。

⑧：類型化し、整理したものに修正する。

⑥：【資料2】第2章2.2.1における酸化鉄の化学式の記載方法が他と異なるため、統一してはどうか。

⑧：統一し、修正する。

ウ 自衛防災組織等の防災活動の手引きの改訂（案）及び自衛防災組織等の防災要員のための標準的な教育テキストの改訂（案）について

⑥：【資料4】第8章6（2）についてホワイトボードの活用例の掲載写真について、写真が小さく分かりづらいが、これを見た人が具体の項目を参考にできるように、写真を拡大する、若しくは記載例を集約したものを追加してみたいか。

⑧：情報の提供元と調整し、掲載方法を改める。

⑥：【資料3】第2の3.3（7）について「施設外への漏えい」との記載があるが「工場敷地外への漏えい」の説明ではないか。

⑧：指摘のとおり、修正する。

閉会

⑥：石油コンビナートにおいて、漏えい事故が増加しているのはデータからも明らかである。一要因として老朽化が挙げられる。老朽化により漏えいには至っているがそれを火災にしない、若しくは小さな事故でとどめるというノウハウが発達してきていると今回の検討を経て感じた。事故が減っていくことがもちろん一番であるが、次善の策も含めて考えていくことが重要であると感じた。

以上